

【平成30年度上期顕彰先一覧】

平成30年度上期 9先	サンコー(株)	家電等卸・小売業	パソコン周辺機器の販売を主業としつつ、年間20~30アイテムのアイデア商品を開発して成長、発展している企業。29年8月から販売開始した「アイロンいらーず」は、シャツの形状にあった「乾燥パック」に洗ったシャツを着せ温風をおくりパンパンにふくらませて約30分でアイロンがけと同等の完成度となる。単身者向けに、マスコミでも取り上げられた結果、現時点で90万台、71百万円の実績となっている。
	(株)飯田製作所	食品機械・食品装置 製造業	「新小型自動団子製造機」の開発。従前の「団子製造機」に対し、①串安定装置（特許取得済）+②串刺異常警報装置（特許取得済）+③製品重量監視装置（特許申請中）を搭載。新技術（特許2、申請中1）により生産性の向上、食の安心・安全を追求した。29年6月の日本食品機械工業展に展示して、高反響、高評価を得た。
	ユニテックシステム(株)	システム開発業	富士通製の「手のひら静脈認証センサー」を利用した勤怠管理システムの開発。非接触1秒で認証を行ない、リアルタイムな出勤状況の把握、就業時間を自動集計できるシステム。不正防止、シフト管理や複数拠点をまとめて管理することが可能。H30年4月に販売開始しHP経由で1か月で40件の問い合わせ有。現地法人のあるミャンマーでは29年10月から販売開始し5社が導入済み。
	大成樹脂工業(株)	プラスチック成品製造業	要介護者が食事を楽しむことが出来るデザインと機能を両立させた「自立支援食器」を開発。2015年グッドデザイン賞受賞し2016年より販売開始。他社の介護食器は「介護しやすさ」の機能に重点が置かれ、介護用とわかるデザインが主流。当社は従前の機能を満たしつつ、より要介護者目線で食べやすい工夫を施し、目つ、通常の食器と遜色のないデザインの食器を開発した。
	(株)田中医科器械製作所	医療機器製造業	脊椎分野のインプラント（82%が外資系製品）の国産製品開発を目指して、当社が取りまとめ役となって中小企業5社で「RENGプロジェクト」を推進。特許問題を解決しつつ開発したインプラントが、高度管理医療機器として大臣承認の必要なクラスⅢの薬事承認を2016年取得し保険診療適用になり販売を開始した。その後も改良、試験を重ね、昨年末より21症例の手術が行われ高い評価を得ている。
	(株)東京ベル製作所	金属製品製造業	ノック式回転カム機構を使用した消音機能付熊避けベル。本体を上下に引くことで簡単に音をON/OFFできる仕組みで片手での操作が可能なおことに加え、従来品比54%の軽量化商品を完成させて2018年4月から販売開始。当社の「TB」ブランドは自転車ベルの国内シェア60%を占める業界を代表するベルメーカーで、新分野参入に挑戦して開発した「熊避けベル」は当社として初の登山用品。
	(株)サンテックコーポレーション	業務用電気調理機器	プレート交換式マルチベーカークの開発。1台の電気式ベーカークで、プレートを交換することで複数商品に対応でき、少量多品種のメニュー展開が可能。従来の電気式ベーカークは1種類1台の機械が必要であったもの。モーニングはパンケーキ、ランチタイムはホットサンド、ティータイムはワッフル等時間帯に応じたメニューの提供が可能。プレート丸洗いができ清掃も簡単。平成25年より発売開始。
	(株)ジーネクスト	ソフトウェア業	顧客管理システム（CRM）の販売、保守、カスタマイズを業務とする。「CRMotion」（お客様相談室専用システム）を開発してお客さま相談室を設けているメーカー企業に対し販売。VOC（顧客の声）の一元化と効率的な情報共有により、顧客満足度を大幅に高めることで企業価値の向上に繋げる。大手企業に導入され、様々な業界からの発注を確保している。
	大場硝子加工所	江戸切子の加工事業	伝統工芸技術「江戸切子」におけるオリジナル製品の製造と新たな販売ルートの確立および技術の伝承が申請の理由。当社代表は2代目。国内で15名しか存在しない伝統工芸士の1人であり、昭和45年生まれで平成21年に工芸士に認定された業界最若手。伝統技術を守り、後継者を育てつつ、他との差別化を図る商品、食器以外への分野への取組、ビジネスマッチングを通じてのネット販売ルートの開拓等に挑戦。